

# 令和4年度 ふくしま学力調査分析報告書【概要版】

令和4年11月17日  
福島県教育委員会

## 1 ふくしま学力調査について



### 1 調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### 2 調査実施日

令和4年4月13日（水）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための学級閉鎖等により調査実施日に実施が困難な学校に限り、調査実施日を令和4年4月14日（木）から5月2日（月）までの任意の日に変更して実施した。

### 3 参加学校数・参加人数

(1) 小学校 402校

※ 義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

(2) 中学校 215校

※ 義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

(3) 児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を1つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
13,098	13,578	13,969	13,750	13,734

### 4 調査事項

(1) 教科に関する調査

① 小学校第4学年～第6学年 国語、算数

② 中学校第1学年・第2学年 国語、数学

(2) 質問紙調査

○ 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

### 5 結果の活用について

(1) 児童生徒の学習改善に活用する

各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスをを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

(2) 各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、今後の授業改善につなげていく。

## 6 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

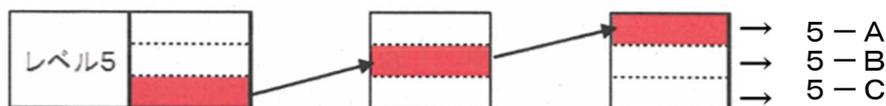
各学年ごとのレベルの範囲 (白が当該学年のレベルの範囲です)

レベル	小4	小5	小6	中1	中2	中3	レベル	レベル(3分割)	数値
	レベル12							レベル12	12-A 12-B 12-C
レベル11							レベル11	11-A 11-B 11-C	33 32 31
レベル10							レベル10	10-A 10-B 10-C	30 29 28
レベル9							レベル9	9-A 9-B 9-C	27 26 25
レベル8							レベル8	8-A 8-B 8-C	24 23 22
レベル7							レベル7	7-A 7-B 7-C	21 20 19
レベル6							レベル6	6-A 6-B 6-C	18 17 16
レベル5							レベル5	5-A 5-B 5-C	15 14 13
レベル4							レベル4	4-A 4-B 4-C	12 11 10
レベル3							レベル3	3-A 3-B 3-C	9 8 7
レベル2							レベル2	2-A 2-B 2-C	6 5 4
レベル1							レベル1	1-A 1-B 1-C	3 2 1

### (1) 学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」はレベル1からレベル12までであるが、測定は各学年7つのレベルで行う。なお、福島県で中学3年生は実施しないため、「学力のレベル」はレベル11までである。

さらに、1つの「学力のレベル」は3分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル5でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



### (2) 学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化し、前回調査との差を計算する(例: 1-Cは“1”、11-Aは“33”)。

### (3) 「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル(3分割)」を数値化した数値が、前年度から1以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。

## 2 調査結果から見える県全体としての傾向

### 1 教科に関する調査の結果から

#### 【国語】

#### (1) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化 (P7)

- 小学校6年生から中学校2年生は、令和3年度調査から数値が2上がっており、着実に学力が伸びている。小学校5年生は、令和3年度の小学校4年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。
- どの学年も、約5割から8割の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

#### (2) 県全体の「学力のレベル」の分布 (P8～9)

- 同じ学年集団の経年比較から、小学校6年生、中学校1年生は、「学力のレベル」の平均の位置が1つ上がり、最下位レベルの割合が少なくなっている。
- 学年が上がるにつれて、最上位レベルの割合が少なくなっている。

#### (3) 県全体の「学力の伸び」の状況 (P12～13)

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、令和3年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっていない。小学校5年生においては、上位から25%～中央に位置する児童が属するレベルが下がっており、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

ほぼ全ての学年において、年々着実に学力が伸びている。小学校5年生は、令和3年度の小学校4年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。また、どの学年も、約5割から8割の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

一方、中位層の「学力の伸び」が少ないことから、児童生徒の言語能力を確実に高めることができるよう、系統性を意識して指導に当たることが求められる。また、児童生徒が何をどのように学習したのかを自覚できるような単元及び授業を構想することが重要である。

## 【算数・数学】

### (1) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化 (P7)

- 全ての学年において、令和3年度調査から数値が1～3上がっており、学年によって伸び幅に違いはあるが、学力が伸びている。
- どの学年も、7割前後の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

### (2) 県全体の「学力のレベル」の分布 (P10～11)

- 同じ学年集団の経年比較から、中学2年生以外は、「学力のレベル」の平均の位置が1つ上がっている。
- 学年が上がるにつれて、中央のレベルより下位の児童生徒の割合が多くなっていく。

### (3) 県全体の「学力の伸び」の状況 (P14～15)

- 全ての学年において、児童生徒が属する全てのレベルが上がっており、着実に学力が伸びている。
- 小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

学年によって伸び幅に違いはあるものの、全ての学年において、年々学力が伸びている。また、どの学年も、7割前後の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

一方、学年が上がるにつれて、中央のレベルより下位の児童生徒の割合が多くなっていく。このことから、早い段階でつまづきを解消できるよう、児童生徒一人一人がどのようなつまづきをしているのかを分析し、具体的な支援を行うなど、個別最適化された学びを実現することが求められる。

※ 各学年の公開問題及び指導上のポイントについては「分析報告書」で紹介している。

## 2 児童生徒質問紙調査と学力の関係から (P16～21)

### 【「学力のレベル」の高さと関係が見られた回答】

#### (1) 授業に関すること

- 授業で学習の見通しを持つことや、話し合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったとする回答。

#### (2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習の準備を整え、授業に臨むことができているとする回答。
- 教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあるとする回答。
- 教師の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表することができるとする回答。

#### (3) 家庭での生活に関すること

- 中学生において、土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強する時間が長いとする回答。
- 読書の冊数が多いとする回答。

### 【「学力の伸び」との関係】

県全体としてクロス集計を行った結果、どの質問項目においても、「学力の伸び」の大きさと関係が見られた回答はなかった。

一人一人の学力の伸びの要因は実に様々であり、まさに各学校における児童生徒の実態を捉え、個別最適化された学びを実現することが必要であると言える。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、学習意欲や自己肯定感の醸成などにつながる学級経営、家庭学習の充実等が学力向上に与える影響が大きい。引き続き、「ふくしまの『授業スタンダード』」を活用した授業改善、一人一人の児童生徒を大切に学級経営、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を基にした自己マネジメント能力の育成を通して、児童生徒の資質・能力の育成を図っていくことが重要である。

上記の結果は、県全体としての傾向であり、そのまま各自治体や各学校・各学級においても同じであるとは限らない。県全体としての傾向を参考にしつつ、各自治体や各学校に送付されている結果帳票を活用し、詳細に分析することが重要である。その分析結果から実態を捉え、授業の質の向上や望ましい学級集団づくり等に生かしていくことで、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばしていくことが期待できる。

なお、本稿「5 エビデンスに基づく授業改善に向けた支援について」で紹介している「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」については、後日各学校へ配付する。

### 3 教科に関する調査の結果

#### (1) 県全体の平均正答率(%)と「学力のレベル」

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
国語	57.9	55.3	62.3	58.3	55.6
	5-A(15)	6-A(18)	7-B(20)	8-C(22)	8-B(23)
算数 数学	60.7	62.8	59.5	58.3	49.3
	5-B(14)	6-C(16)	7-C(19)	7-A(21)	7-A(21)

上段：平均正答率(%) 下段：平均の学力のレベル(数値)

#### (2) 県全体のカテゴリー別平均正答率(%)

##### 【国語】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	言葉の特徴や 使い方	我が国の 言語文化	情報の扱い方 我が国の	話すこと・ 書くこと、 読むこと	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
小学校4年	65.5	52.2	39.5	58.8	63.2	48.0	—	64.8	48.7	14.6
小学校5年	63.2	54.0	51.9	42.8	62.1	46.3	—	57.9	53.0	26.4
小学校6年	63.7	74.7	65.3	54.6	65.0	58.7	—	64.8	58.5	41.0
中学校1年	61.5	58.0	54.7	55.5	60.7	55.2	—	62.8	46.0	46.3
中学校2年	52.9	59.8	54.9	57.2	55.1	56.4	—	58.0	46.4	53.8

##### 【算数・数学】

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	数と計算	図形	変化と関係 (小5〜中1) 測定(小4)	データの活用	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
小学校4年	61.6	49.9	60.8	71.3	63.0	46.2	—	58.1	65.1	39.0
小学校5年	64.6	53.6	73.0	62.5	63.5	58.9	—	60.8	66.9	38.3
小学校6年	63.8	57.9	63.1	49.1	60.0	54.7	—	59.9	60.7	33.5
中学校1年	62.0	52.9	56.5	60.6	59.0	51.1	—	56.5	60.6	48.6
中学校2年	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
中学校2年	50.5	45.1	53.3	47.7	50.6	39.9	—	48.7	51.0	29.5

### (3) 県全体の「学力のレベル」と「学力の伸び」の変化

#### ○ 国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2
現中2	—	H31 1 7	R2 中止	R3 2 1	R4 2 3
現中1	H31 1 6	R2 中止	R3 2 0	R4 2 2	
現小6	R2 中止	R3 1 8	R4 2 0		
現小5	R3 1 8	R4 1 8			
現小4	R4 1 5				

#### ○ 算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2
現中2	—	H31 1 6	R2 中止	R3 2 0	R4 2 1
現中1	H31 1 5	R2 中止	R3 1 8	R4 2 1	
現小6	R2 中止	R3 1 6	R4 1 9		
現小5	R3 1 4	R4 1 6			
現小4	R4 1 4				

※ 表の中の数値は、児童生徒の「学力のレベル（3分割）」を数値化したものである。

※ 横に見ると「同じ学年集団」を、縦に見ると「年度の異なる同じ学年」を比較することができる。

#### ○ 令和3年度調査から学力が伸びた児童生徒の割合（%）（県全体）

	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
国語	52.5	77.3	67.5	66.8
算数・数学	65.5	75.9	71.0	65.5

※ 小学校4年生の学力の伸びが見られるのは、令和5年度調査実施後となる。

#### 【国語】

##### （同じ学年集団の経年比較）

- 小学校6年生から中学校2年生は、令和3年度調査から数値が2上がっており、着実に学力が伸びている。小学校5年生は、令和3年度の小学校4年生段階で高い学力を身に付けており、その水準を維持している。
- どの学年も、約5割から8割の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

##### （年度の異なる同じ学年の比較）

- 小学校5年生と小学校6年生は前年度と同じ数値である。中学校1年生は前年度より数値が1高くなっている。

#### 【算数・数学】

##### （同じ学年集団の経年比較）

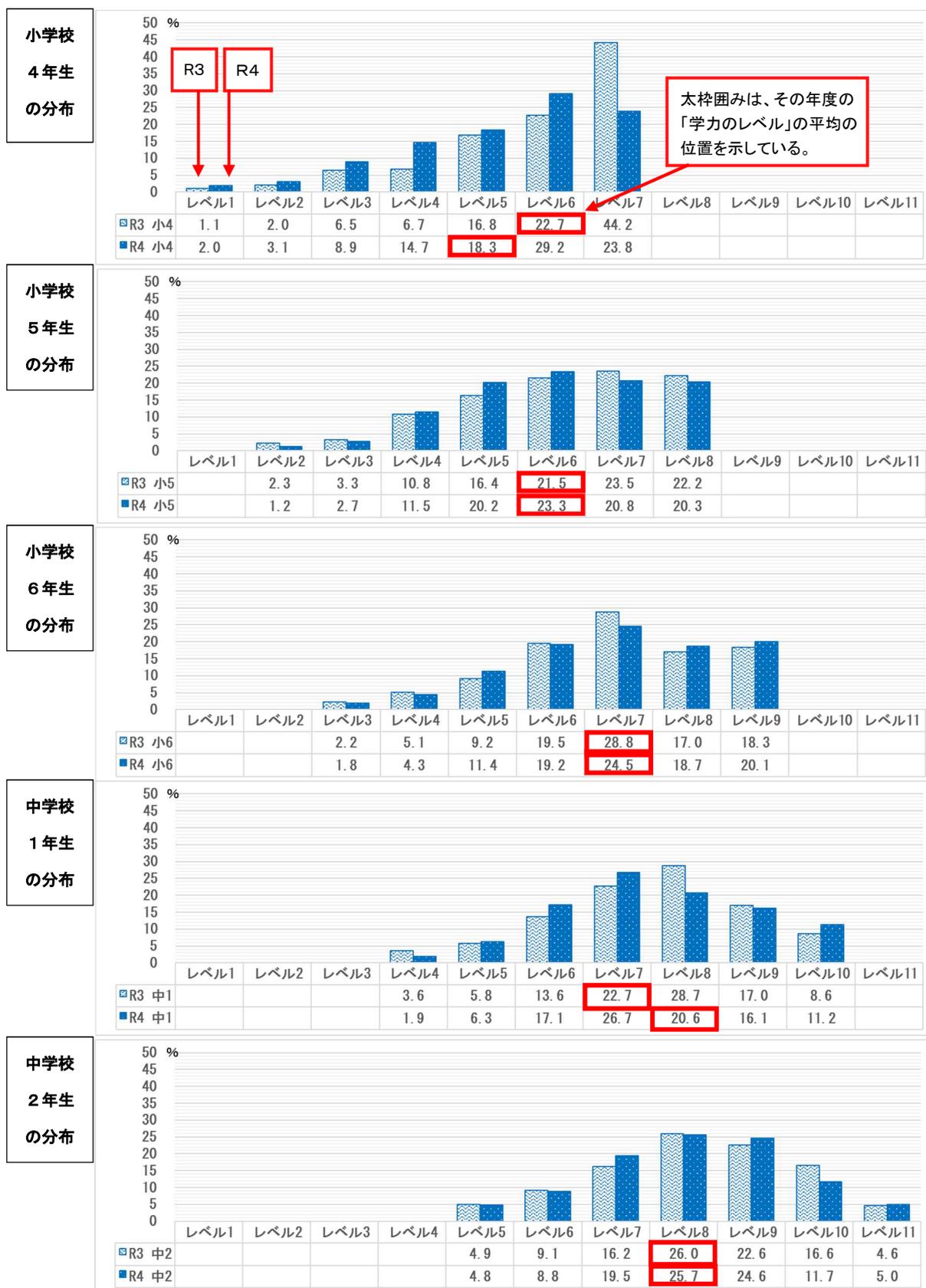
- 全ての学年において、令和3年度調査から数値が1～3上がっており、学年によって伸び幅に違いはあるが、学力が伸びている。
- どの学年も、7割前後の児童生徒が、令和3年度調査から学力を伸ばしている。

##### （年度の異なる同じ学年の比較）

- 小学校4年生と小学校5年生は前年度と同じ数値である。小学校6年生と中学校1年生は前年度より数値が1高くなっている。

## (4) 県全体の「学力のレベル」の分布 ① 国語

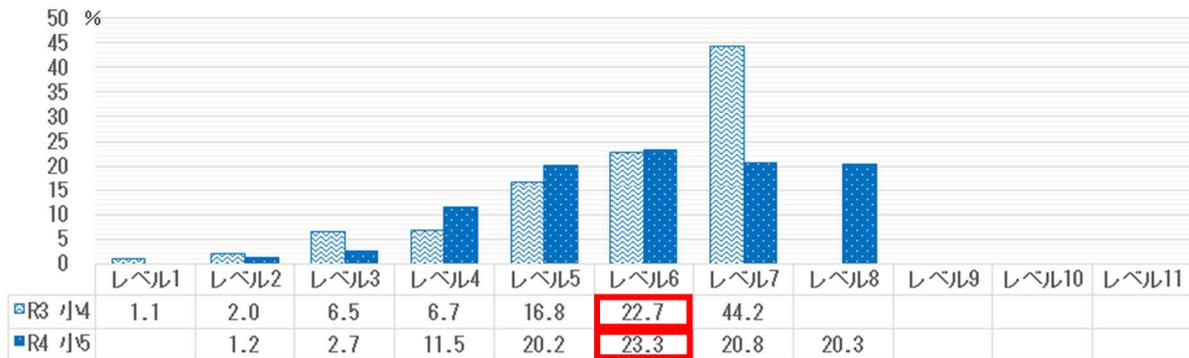
### 【年度の異なる同じ学年の比較（国語）】



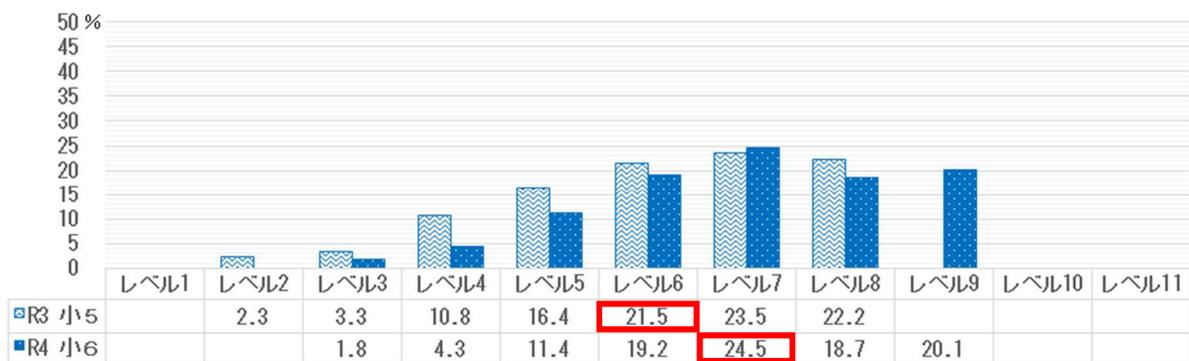
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 【同じ学年集団の経年比較（国語）】

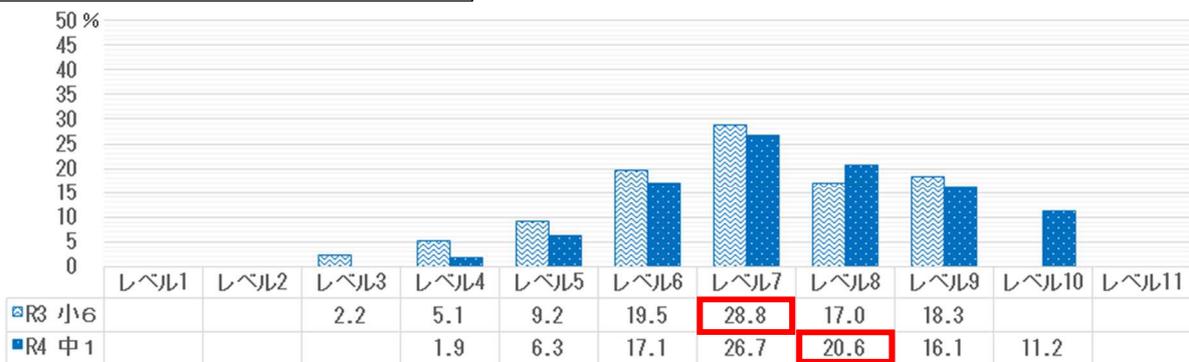
R3 小学校4年生 → R4 小学校5年生



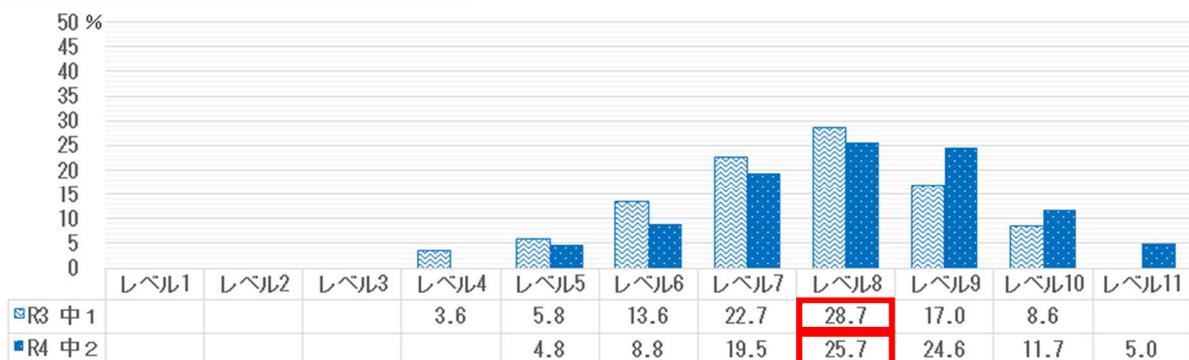
R3 小学校5年生 → R4 小学校6年生



R3 小学校6年生 → R4 中学校1年生

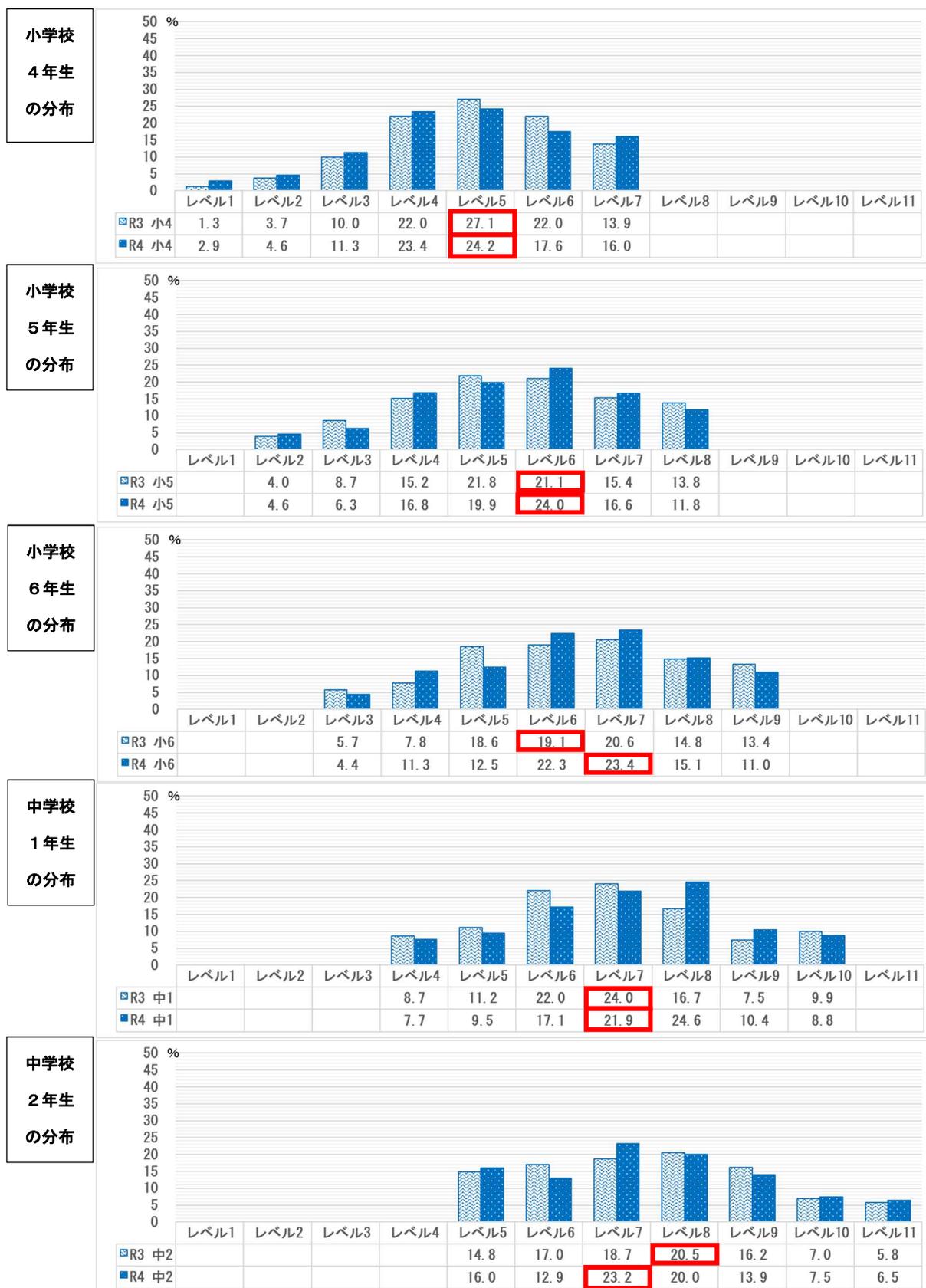


R3 中学校1年生 → R4 中学校2年生



## (4) 県全体の「学力のレベル」の分布 ② 算数・数学

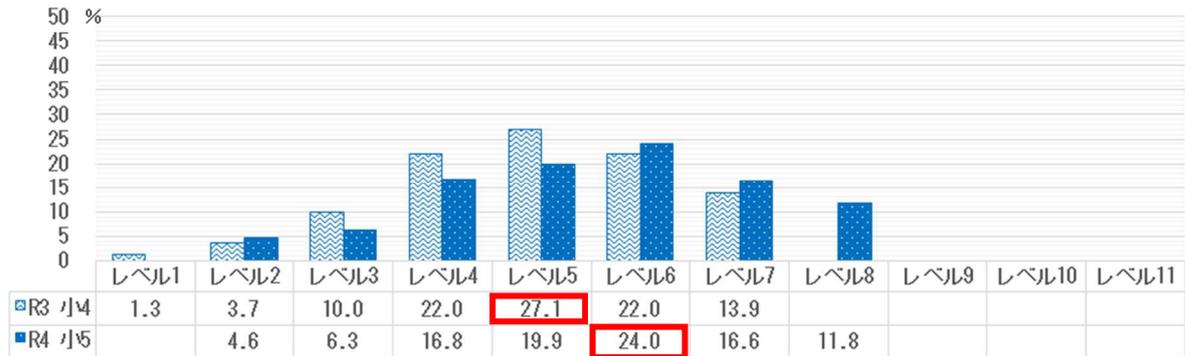
### 【年度の異なる同じ学年の比較（算数・数学）】



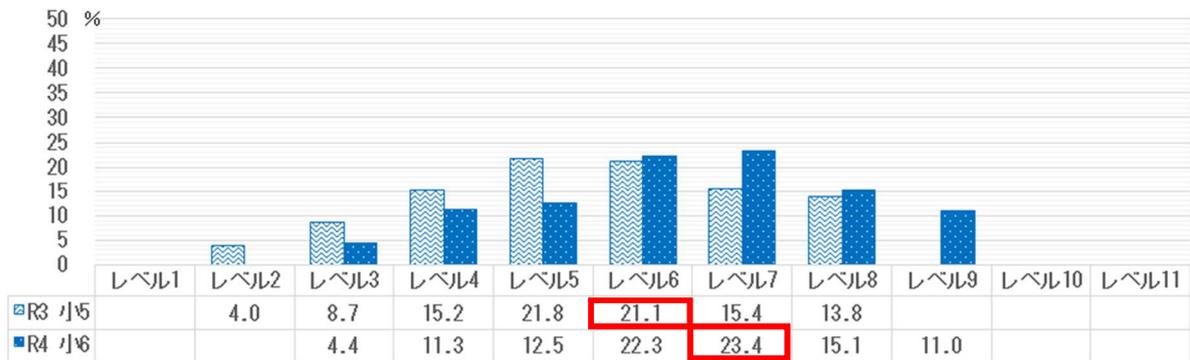
※ 学力の各レベルに属する児童生徒数の分布割合は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

## 【同じ学年集団の経年比較（算数・数学）】

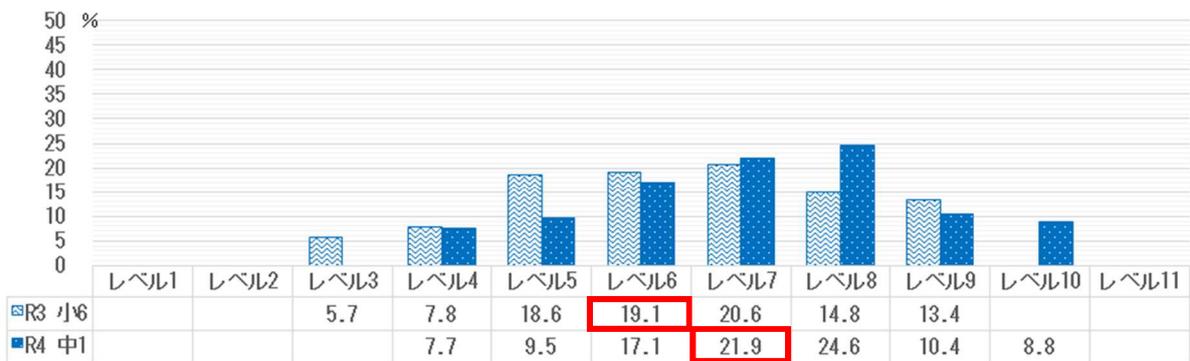
R3小学校4年生 → R4小学校5年生



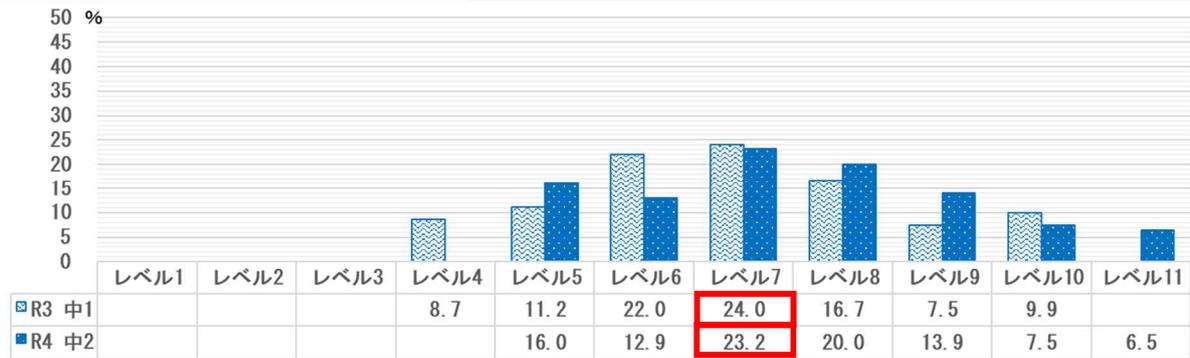
R3小学校5年生 → R4小学校6年生



R3小学校6年生 → R4中学校1年生



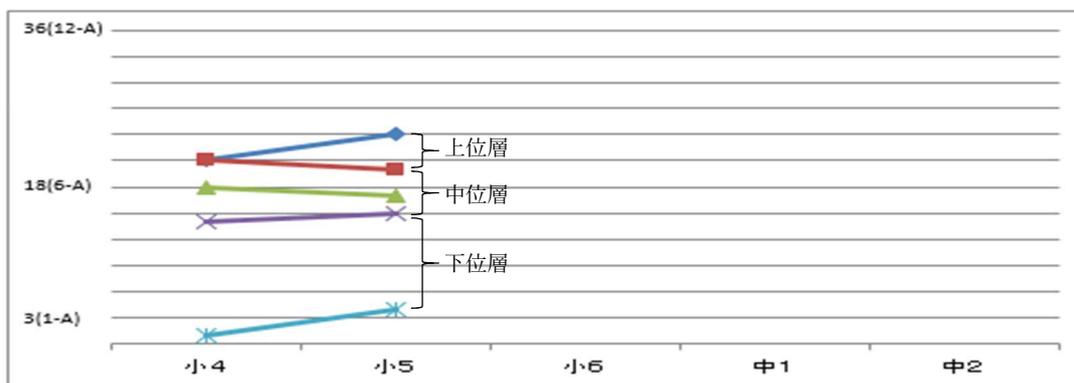
R3中学校1年生 → R4中学校2年生



## (5) 県全体の「学力の伸び」の状況 ① 国語

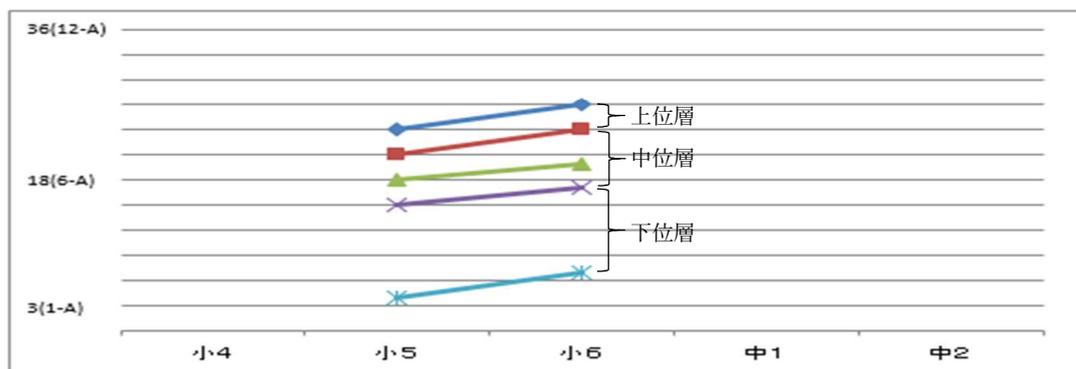
【平成30年度入学(現小学校5年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	21	24	-	-	-	-
上位から25%に位置する児童が属するレベル	21	20	-	-	-	-
中央に位置する児童が属するレベル	18	17	-	-	-	-
上位から75%に位置する児童が属するレベル	14	15	-	-	-	-
最下位の児童が属するレベル	1	4	-	-	-	-



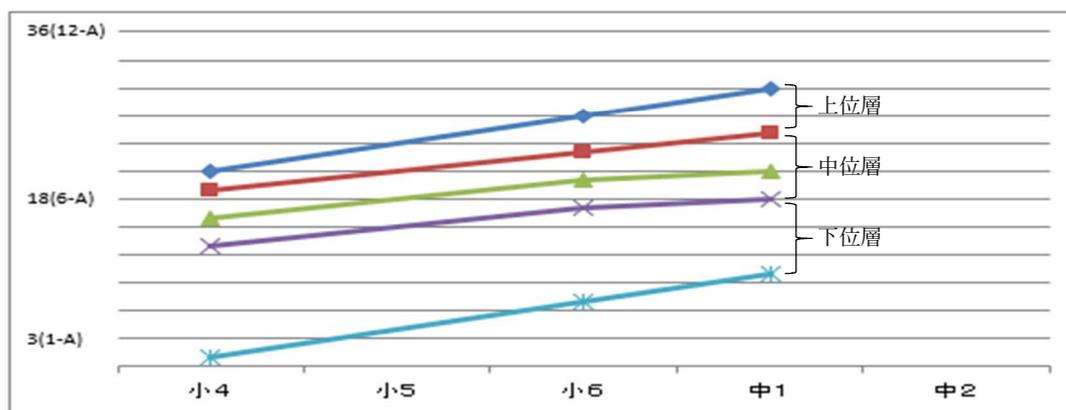
【平成29年度入学(現小学校6年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童が属するレベル	-	21	24	-	-	-
中央に位置する児童が属するレベル	-	18	20	-	-	-
上位から75%に位置する児童が属するレベル	-	15	17	-	-	-
最下位の児童が属するレベル	-	4	7	-	-	-



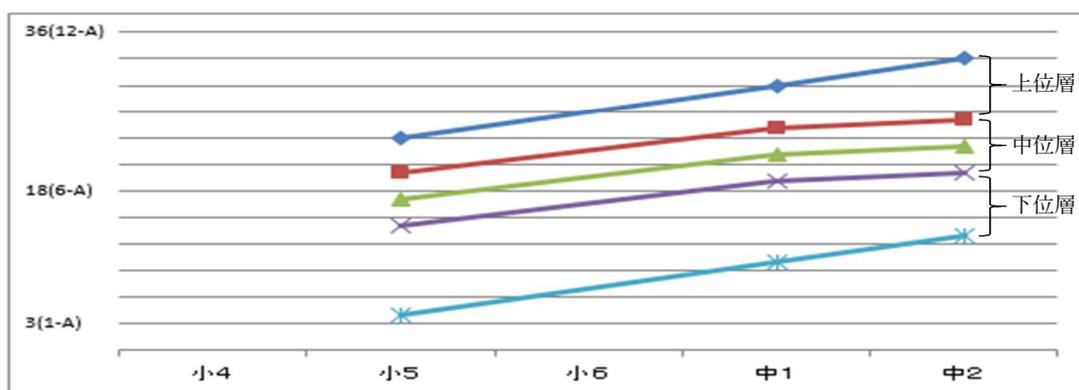
【平成28年度入学(現中学校1年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	21	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	19	-	23	25	-	-
中央に位置する児童生徒が属するレベル	16	-	20	21	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	13	-	17	18	-	-
最下位の児童生徒が属するレベル	1	-	7	10	-	-



【平成27年度入学(現中学校2年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	-	24	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	-	20	-	25	26	-
中央に位置する児童生徒が属するレベル	-	17	-	22	23	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	-	14	-	19	20	-
最下位の児童生徒が属するレベル	-	4	-	10	13	-



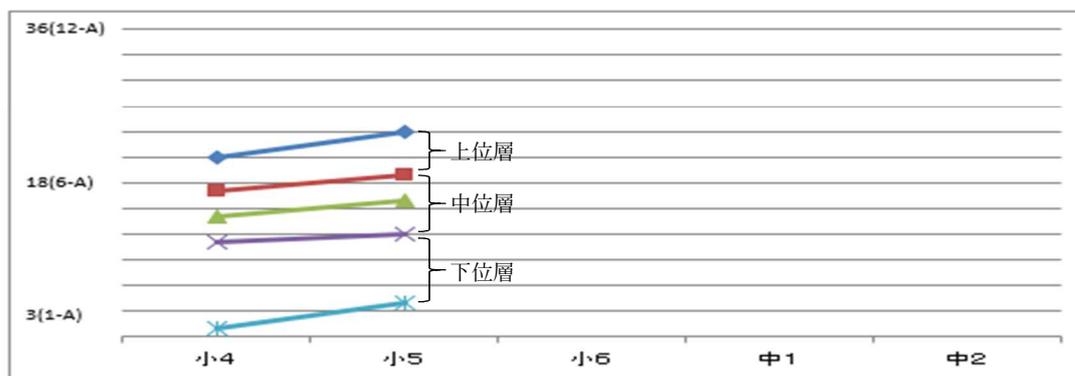
【国語】

- 全ての学年において、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルは、令和3年度調査と比べて数値が3上がっており、着実に学力が伸びている。
- 小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっていない。小学校5年生においては、上位から25%～中央に位置する児童が属するレベルが下がっており、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

## (5) 県全体の「学力の伸び」の状況 ② 算数・数学

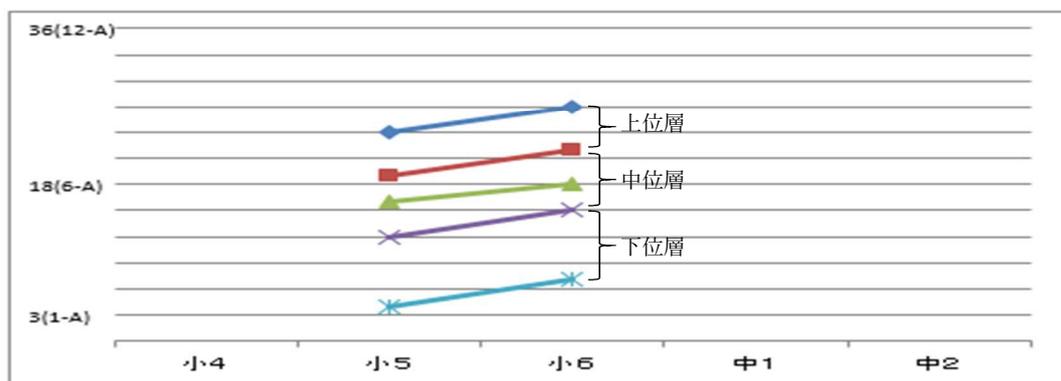
【平成30年度入学(現小学校5年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	21	24	-	-	-	-
上位から25%に位置する児童が属するレベル	17	19	-	-	-	-
中央に位置する児童が属するレベル	14	16	-	-	-	-
上位から75%に位置する児童が属するレベル	11	12	-	-	-	-
最下位の児童が属するレベル	1	4	-	-	-	-



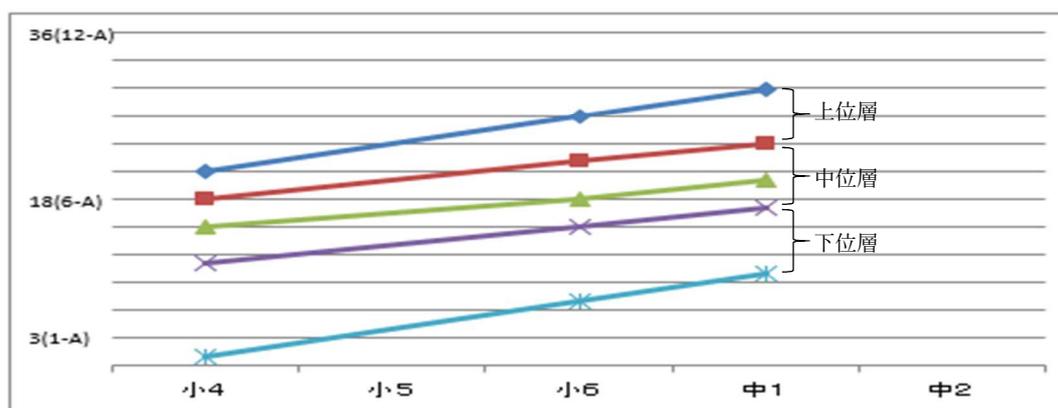
【平成29年度入学(現小学校6年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童が属するレベル	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童が属するレベル	-	19	22	-	-	-
中央に位置する児童が属するレベル	-	16	18	-	-	-
上位から75%に位置する児童が属するレベル	-	12	15	-	-	-
最下位の児童が属するレベル	-	4	7	-	-	-



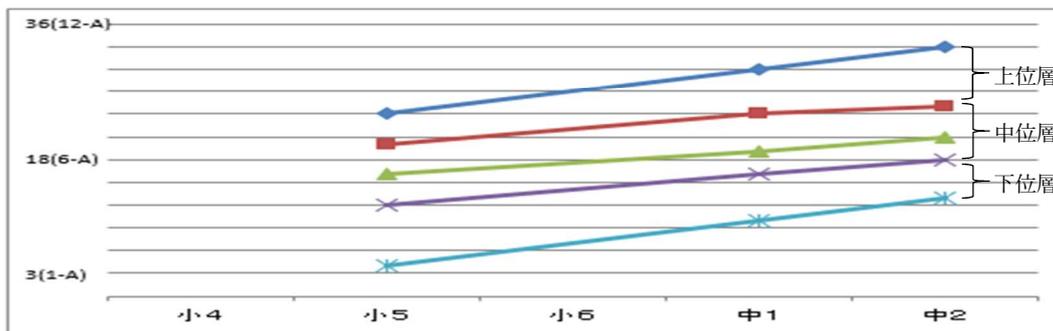
【平成28年度入学(現中学校1年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	21	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	18	-	22	24	-	-
中央に位置する児童生徒が属するレベル	15	-	18	20	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	11	-	15	17	-	-
最下位の児童生徒が属するレベル	1	-	7	10	-	-



【平成27年度入学(現中学校2年生)】

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するレベル	-	24	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するレベル	-	20	-	24	25	-
中央に位置する児童生徒が属するレベル	-	16	-	19	21	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するレベル	-	12	-	16	18	-
最下位の児童生徒が属するレベル	-	4	-	10	13	-



【算数・数学】

- 全ての学年において、児童生徒が属する全てのレベルが上がっており、着実に学力が伸びている。
- 小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生においては、上位から25%～75%に位置する児童生徒が属するレベルが、最上位及び最下位の児童生徒が属するレベルほど上がっておらず、中位層の児童生徒の「学力の伸び」が少ない。

## 4 児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」

### (1) 授業に関すること

- 学習の見通しを持つことや、話し合い活動で自分の考えを持つこと、学習内容のつながりを明確にすることと「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、学力向上に寄与している。

- ◎ 授業の始めに学習活動の見通しを持たせることで、主体的な学びを促すとともに、振り返りの場面における視点が明確になる。
- ◎ 話し合い活動を取り入れる際には、論点や課題を明確にし、他の児童生徒と考えを共有したり、比較・検討したりすることができるように働きかける。また、話し合い活動を行ってから、自分の考えをもう一度整理し、表現する時間を確保することも大切である。
- ◎ 単元全体を見通して指導計画や評価計画を立て、学習内容のつながりや既習事項との関連を明確にすることが必要である。

#### 【ふくしまの「授業スタンダード」より】

- ・ 「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために、焦点化された学習課題を設定しましょう。
- ・ 思いや考えを広げ深めることができるようにするために、児童生徒の考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。
- ・ 導入において既習事項の振り返りから「問い」や「思い・願い」を引き出したり、計画や見通しを持たせる場面において学習課題と既習事項を関連付けたりする学習活動を設定し、終末において振り返りましょう。

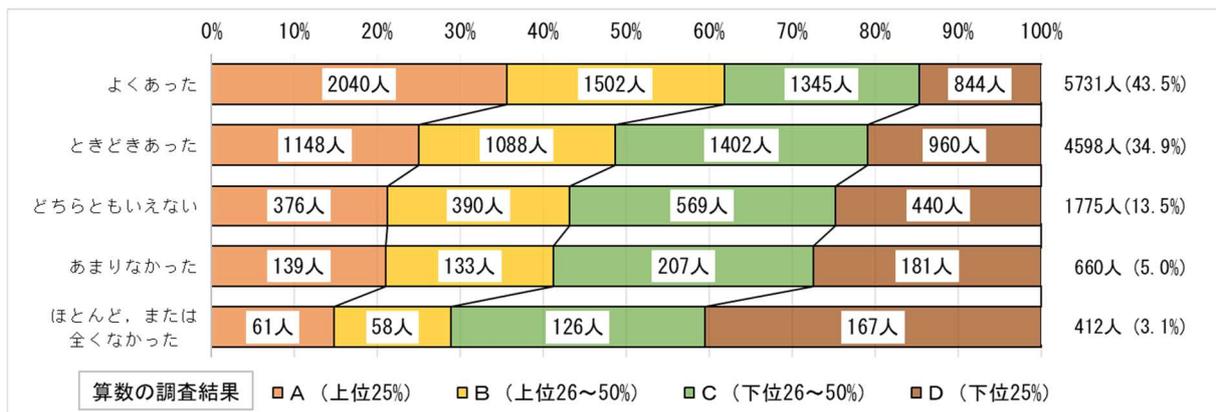
### <児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだことがありましたか』

横軸：『算数の調査結果』（小5）

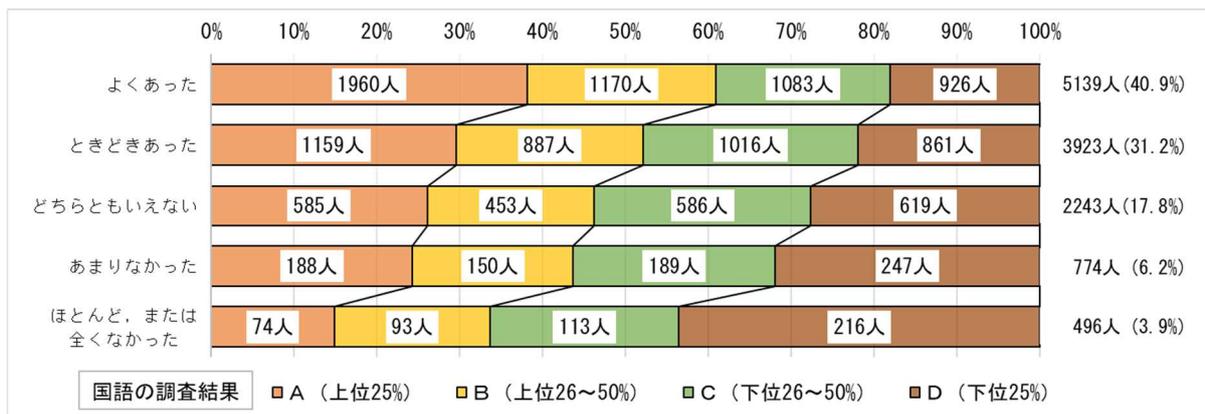
#### 小学校5年生 算数

※ クロス集計の結果は、代表的な学年・教科を取り上げています。他の学年・教科のクロス集計結果は、後日福島県教育委員会のホームページに掲載予定の「ふくしま学力調査分析報告書」をご覧ください。



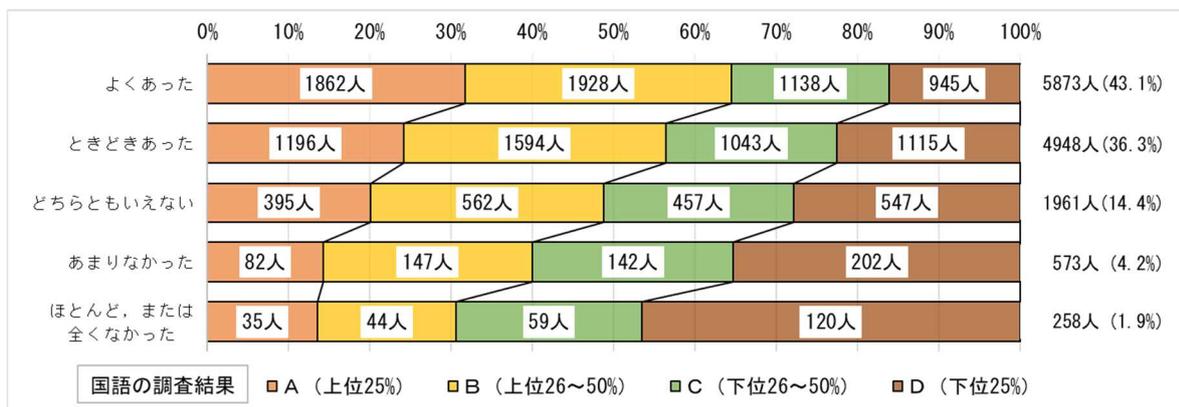
縦軸：質問『課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったことがありましたか』  
 横軸：『国語の調査結果』（小4）

小学校4年生 国語



縦軸：質問『授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがありましたか』  
 横軸：『国語の調査結果』（小6）

小学校6年生 国語



## (2) 学習意欲や学習環境に関すること

- 学習の準備を整える等の授業に臨む心構えや、他の児童生徒及び教師から認められる等の自己肯定感と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。
- 教師の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表する等の学習習慣や学ぼうとする意欲（非認知能力の一つ）と「学力のレベル」の高さに関係が見られた。

- ◎ 授業に臨む心構えを大切にさせ、授業に必要な学習用具を整えておくなどのよりよい学習習慣や学習に対する前向きな姿勢を育てることが重要である。
- ◎ 学級経営において、教師が積極的に児童生徒のよいところをほめたり、児童生徒同士が互いのよさを認め、高め合う雰囲気醸成することにより、達成感を得たり、自己肯定感を高めたりすることが学力向上につながると考えられる。
- ◎ 友達の発表を聞いたり、自分の考えを相手に伝えたりするためには、「何について話し合っているか」や「何を学んだか」が児童生徒にとって明確になるように発問を工夫する必要があると考えられる。

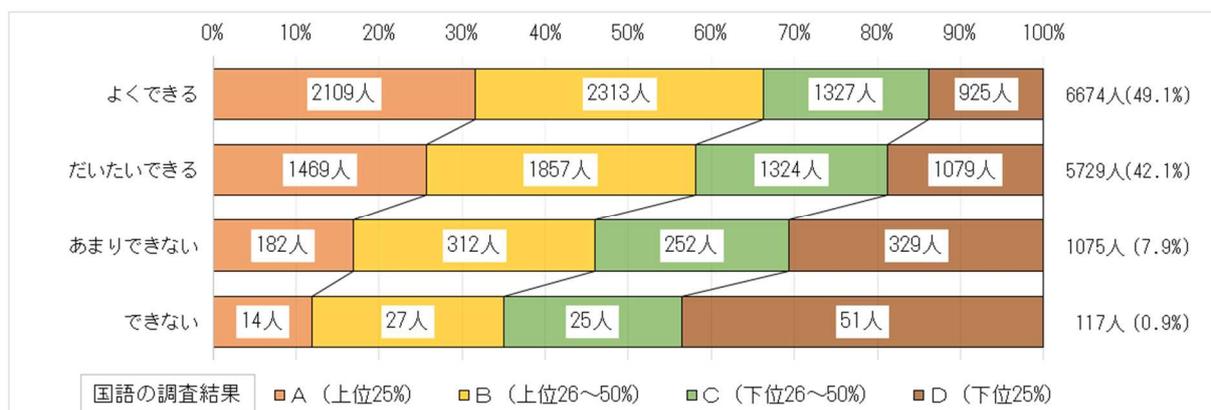
### 【ふくしまの「授業スタンダード」より】

- ・ 学習規律について、発達段階を踏まえて共通実践することを大切にしましょう。
- ・ 普段の学校生活全般において、教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築いていくことを大切にしましょう。
- ・ 発達段階に応じて、児童生徒にどのような活動を通してどこまで考えさせるかを明確にした授業づくりを大切にしましょう。

### <児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計結果から>

縦軸：質問『授業の前に、机の上に学習用具をそろえることができますか  
(学習の準備を整え、授業に臨むことができますか。)]  
横軸：『国語の調査結果』(中2)

#### 中学校2年生 国語



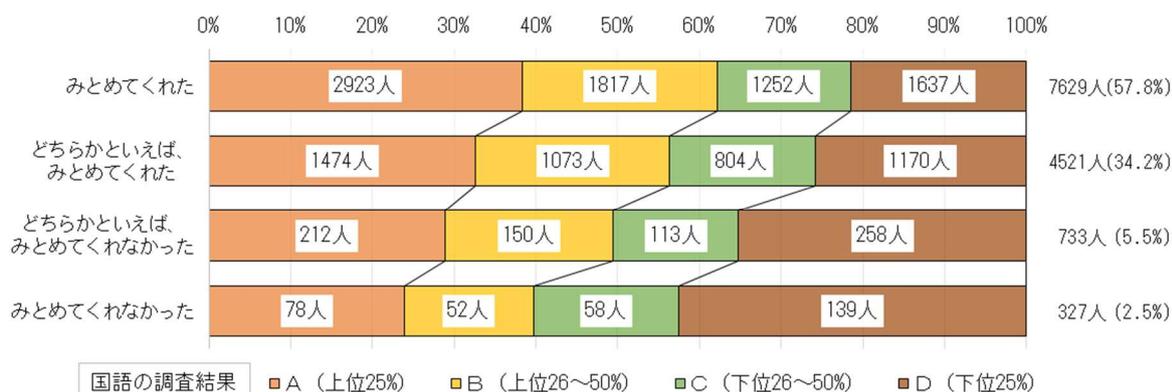
縦軸：質問『学校の先生たちは、自分のよいところを認めてくれましたか』  
横軸：『算数・数学の調査結果』（小5）

小学校5年生 算数



縦軸：質問『学校の友達は、自分のよいところを認めてくれましたか。』  
横軸：『国語の調査結果』（小5）

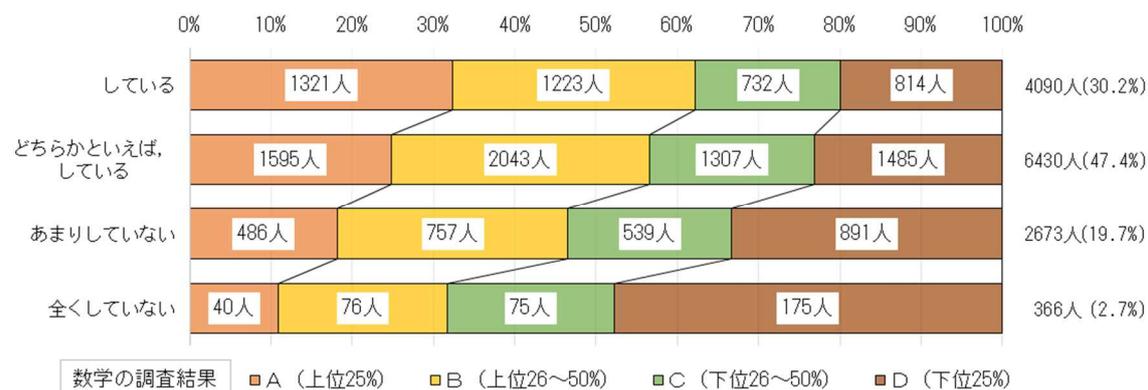
小学校5年生 国語



縦軸：質問『先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表する（考えを伝える）  
ことができているか。』

横軸：『算数・数学の調査結果』（中1）

中学校1年生 数学



### (3) 家庭での生活に関すること

- 学年差はあるが、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強する時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）が長いほど、「学力のレベル」の高い児童生徒の割合が多くなる傾向が見られた。
- 読書の冊数が多いと回答するほど、学力が高い傾向が見られた。

- ◎ 家族で一緒に読書に親しむ機会を増やすことや、読書環境を整えることなど、引き続き読書量を増やす取組をすることは、学力の向上に寄与するものである。加えて、どのような本を読むかという点に着目し、幅広い読書活動を促すことも大切である。
- ◎ 土曜日や日曜日など休日における家庭学習の時間の確保も含め、その内容や方法等について、引き続き家庭と共通理解を図って進めることが大切である。

#### 【ふくしまの「家庭学習スタンダード」より】

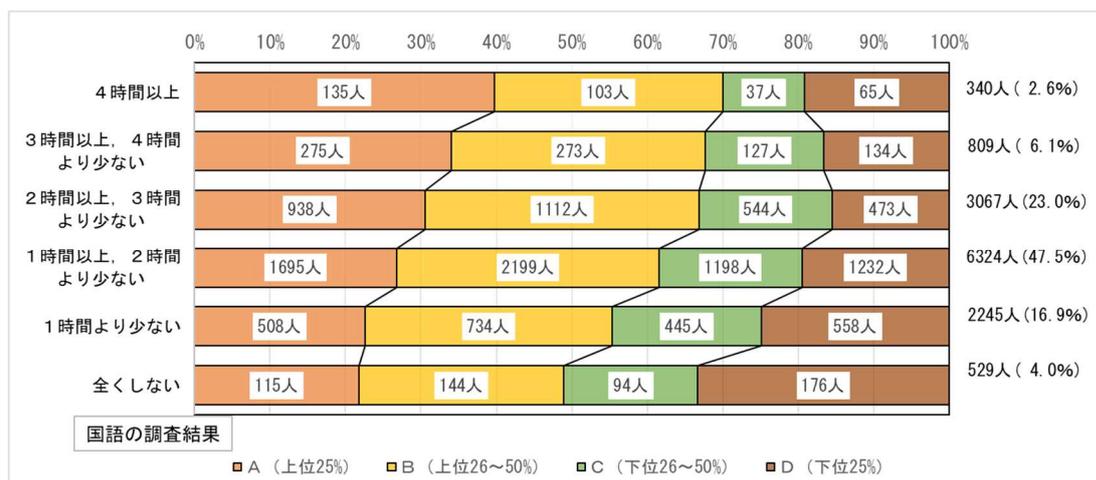
- ・ 「家庭学習を充実させるための学校の4つの取組」の1つから、学習内容に応じて宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めたり、授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介したりするなど、授業と家庭学習をつなげましょう。
- ・ 「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の3つの視点で家庭・地域と協力・連携体制を築いて、「自己マネジメント力」を育てていきましょう。  
(家庭への働きかけとして)
- ・ 「環境づくり」の視点から、家族で一緒に読書する機会を設けていきましょう。
- ・ 「習慣づくり」の視点から、テレビやゲーム、スマホなどをするときのルールを決めましょう。また、「起床時刻」や「就寝時刻」、「学習を始める時刻」等の約束ごと、保護者と児童生徒が話し合い、家族みんなで規則正しい生活を心がけましょう。

#### <児童生徒質問紙調査結果と「学力のレベル」の階層のクロス集計の結果から>

**縦軸：質問『土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます）』**

**横軸：『国語の調査結果』（中1）**

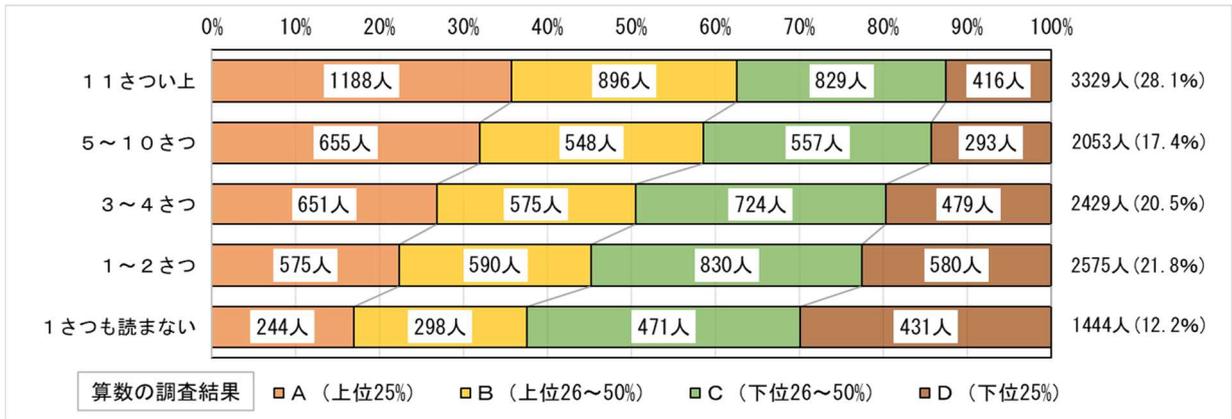
#### 中学校1年生 国語



縦軸：質問『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』

横軸：『算数・数学の調査結果』（小4）

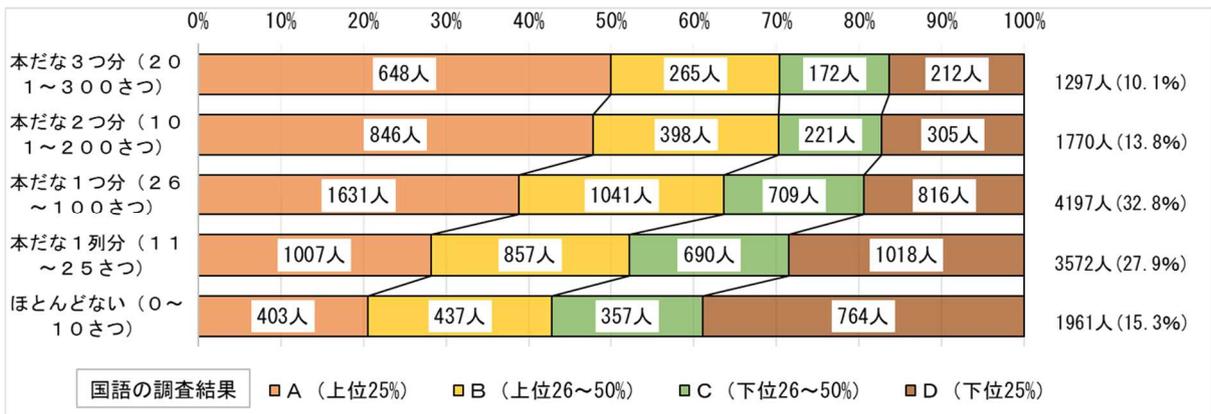
小学校4年生 算数



縦軸：質問『家には、自分や家の人を読む本がどれくらいありますか』

横軸：『国語の調査結果』（小5）

小学校5年生 国語



## 5 エビデンスに基づく授業改善に向けた支援について

### 1 子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

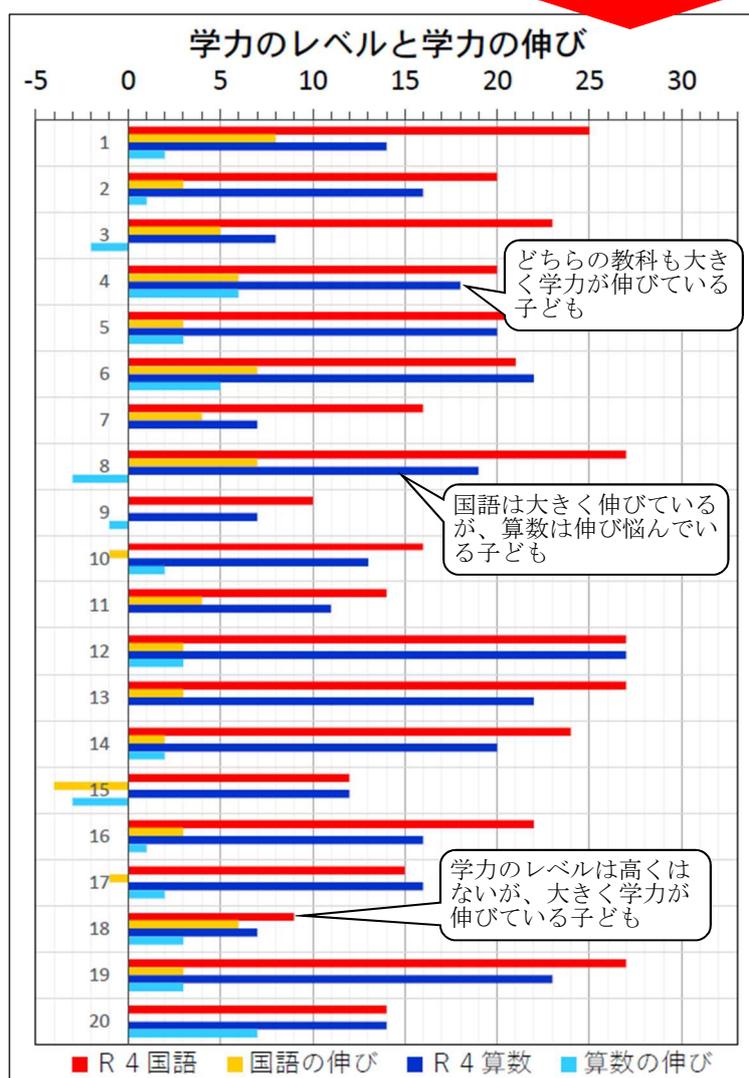
今年度初めて子ども一人一人の学力の伸びが数値化された。先に各学校に配付されている「帳票40」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されている。

40 学校用																				
令和4年度ふくしま学力調査(小学校6年生)																				
学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別																				
〇〇立△△小学校																				
本標票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0~5.0となっています。																				
数値が高いほど、よい値となっています。																				
「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。																				
令和3・4年度の前年度からの学力の数値及びそれらの変化量は、参考値として記載しています。																				
年度	市町村教育委員会名	学校コード	学校名	R4在籍情報				R3在籍情報				学校平均		市町村平均		福島県平均				
				個人番号	学年	組	出席番号	性別	個人番号	学年	組	出席番号	性別	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	昨年度からの学力の伸び	R3レベル
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700001	6	1	1	2	1700001	5	1	1	2	8-B	2	7-A	7-A	3	6-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700002	6	1	2	1	1700002	5	1	2	1	7-A	3	6-A	7-C	3	6-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700003	6	1	3	2	1700003	5	1	3	2	7-B	2	6-A	7-C	3	6-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700004	6	1	4	1	1700004	5	1	4	1	9-C	8	6-B	5-B	2	4-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700005	6	1	5	1	1700005	5	1	5	1	7-B	3	6-B	6-C	1	5-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700006	6	1	6	2	1700006	5	1	6	2	8-B	5	6-A	3-B	-2	4-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700007	6	1	7	2	1700007	5	1	7	2	7-B	6	5-B	6-A	6	4-A
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700008	6	1	8	1	1700008	5	1	8	1	9-B	3	8-B	7-B	3	6-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700009	6	1	9	1	1700009	5	1	9	1	7-A	7	5-B	8-C	5	6-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700010	6	1	10	2	1700010	5	1	10	2	6-C	4	4-A	3-C	0	3-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700009	6	1	9	1	1700009	5	1	9	1	9-A	7	7-B	7-C	-3	8-C
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700009	6	1	9	1	1700009	5	1	9	1	4-C	0	4-C	3-C	-1	3-B
2022	99	〇〇〇教育委員会	070000000	〇〇〇立△△小学校	1700010	6	1	10	2	1700010	5	1	10	2	6-C	-1	6-B	5-C	2	4-B

本年度義務教育課内に立ち上げた研修支援チームでは、「学力の伸び」から、子どもたちのどのような姿が見えてくるのか、数値だけでは見えにくいのではと考えた。そこで、右のグラフのように、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、これまでの訪問の際に活用し、検証を進めてきた。

右のグラフは、小学校6学年の例であり、令和4年度の国語と算数の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」を表しており、4本で1人の子どもを示している（学籍番号順）。

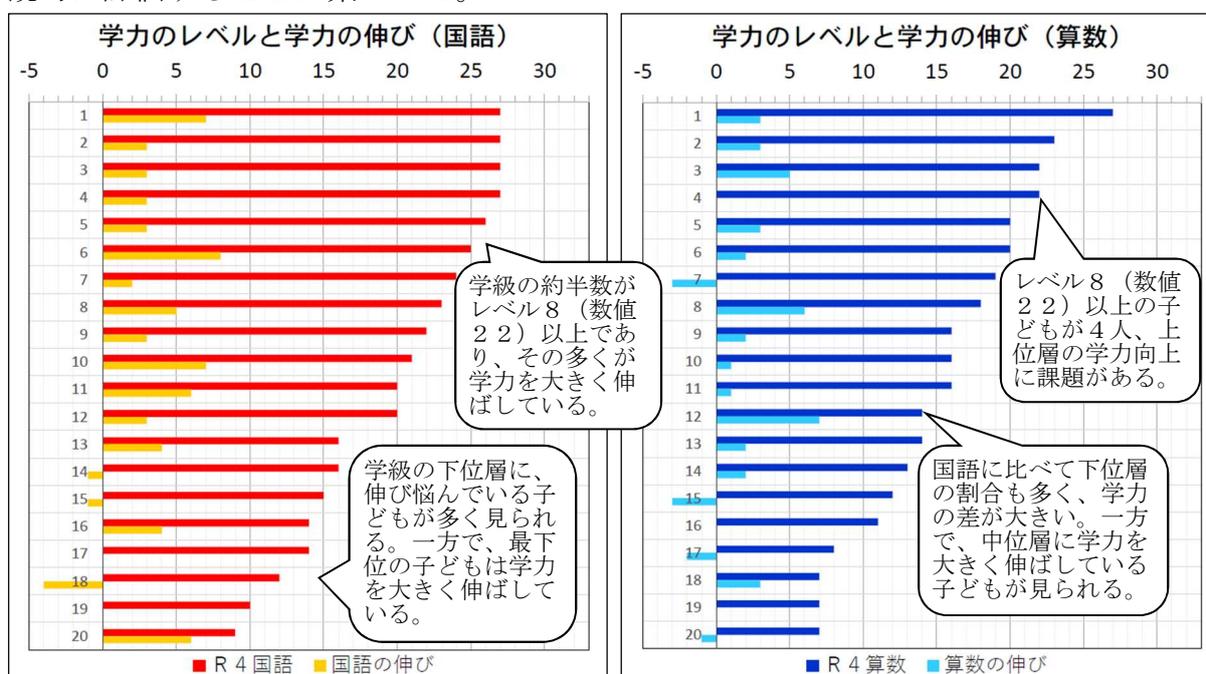
このグラフから、例えば、どちらの教科も大きく学力が伸びている子どもや、国語の学力は大きく伸びているが、算数は伸び悩んでいる子どもなど、子ども一人一人の学力の状況が見えてくる。



これらの結果を基に、子ども一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんだが、これらの結果を授業改善に生かすことが大切であると考え。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、例えば、学力が大きく伸びている子どもを、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる子どもに対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられる。他にも、子ども一人一人にどのような変容があったのかを、生徒指導の面から話し合うことも考えられる。

## 2 エビデンスを教科指導に生かすために

子ども一人一人の学力の状況を把握すると共に、教科指導にも生かしたい。そこで、以下のように教科ごとにグラフを分けて表してみる（学力のレベルと学力の伸びの順）。先日訪問した小学校は、現職教育の研究教科が国語であった。グラフを見ると、どの学年においても、国語の学力を大きく伸ばしていることから、学校での取組を客観的に評価することに繋がった。



例えば、上の2つのグラフを見ると、国語においては、学級の約半数がレベル8（数値22\*）以上であり、その多くが学力を大きく伸ばしている。この学級での取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善が図られる。また、算数においては、レベル8（数値22）以上の子どもの数が少なく、上位層の学力向上が課題である。一方で、中位層に学力を大きく伸ばしている子どもがいることから、どのような指導が、学力の伸びにより影響を与えているかを検証し、自身の授業を振り返ることで、具体的な指導方法等の改善に繋がれると考える。

さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかは、「帳票09」や「帳票28」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができる。さらには、必要に応じて「帳票01」から、子ども一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びに繋げることも大切である。

なお、児童生徒質問紙調査から見える「主体的・対話的で深い学び」「学習方略」「非認知能力」等の分析結果の活用については、今後研究を進め、提案していく。